

「神によって立てられている権威」

ローマ13：1－7

堀田修一 24・8・4

I 国家と社会と自己に対して責任をもって生きる。服従と愛と自制の倫理。

1. 「人は皆、上に立つ権威（国家の権威）に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです」：1。このみことばの理解の大切な点は、このみことばは決して、神の権威と地上的権威が全く同一と言っているのではなく、また地上の権威が常に正しいと言っているのでもないという点です。地上における支配的諸権威は、不完全であっても、偉大な神の支配の中にあるということです。

2. 「したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます」：2。「さばき」は、終末的と地上的の二重の意味がある。すなわち、悪へのさばきは現実的には時の国家・法的裁きによって行われるが、究極的には神による終末的最後の裁き、審判がある。この世の悪が地上の国家の裁きを免れても、神による全く正しい最後の審判で、すべてが公平、公正にさばかれる。私たちは、特に三つのことを聖書全体から理解しておきたい。①キリスト者の愛の勧め。真の神を信じ恐れ敬い神のみに支配されるキリスト者は、本質的には国家に対しても完全に独立した存在であり、常に国家の命令は正しいかどうか神により新しくされた知性、考えにより識別する立場に立っている（12：2）。それ故に、私たちの服従は、決して奴隷的な服従ではなく、神に従う存在として、主体性を持っている者として神の愛と識別力をもっての服従です。②存在している国家秩序の背後に、神の支配、摂理が働いている事実を認め、無政府主義者ではなく、明確に誤った命令、規則でない限り服従する。③国家権力に、いたずらに反逆するのではなく、むしろキリストの愛により、明確に悪の命令でない限り服従し、福音の前進を第一にする。例：「使徒の働き」の中でのパウロとローマの兵士の関係。ある歴史者が言ったように、ローマは武力によって世界を制したが、キリスト教は愛によってローマを制した。

3. 「支配者（法的権威）を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威（法的権威）を恐ろしいと思いたくなければ、善（法的秩序に従う）を行いなさい。そうすれば、権威（神が立てられた法的秩序）から称賛されます」：3。

4. 「彼（国、権威）はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います」：4。国や権威は、本来は、国民に益を与えるための、神のしもべである。現実には、神のしもべという自覚がなく、国々の政治家は、国民の益ではなく、自分たちの私利私欲の為に動いている。国会中、居眠りをして、1年間、国、国民のための仕事をしていなくても、料亭で食事をして政治活動と言えば自分のお金を使うことなく、裏金、不明金が多額であっても、毎月、多額の給料を受けている。彼らが、自分たちを立てられた神を恐れ、自分たちの悪を悔い改め、正しさと弱い人を助ける政治が出来るよう

に祈りたい。私たち国民も、悪を行うなら、神の正しい怒り（人間と違う正しい公正なさばき）、法的な報いを受けることを自覚して、神の前に正しく歩めるように祈りたい。

5. 「ですから、怒りが恐ろしいからだけではなく、良心のためにも従うべきです」：5。キリスト者の服従は、奴隷的服従ではなく、良心的服従です。キリスト者は本質的には、神に救われ神のものとされた者として、国家から独立した存在です。国の間違っただ命令に盲目的に従うようなことはしない。その意味と役割をご聖霊により新しくされた心で識別し、判断し（「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるかを見分けるようになります」12：2）、神の前の良心のゆえに従うのです。従ってその従順はあくまで主体的なものです。もし国の命令が明らかに信仰の良心に反するものなら、私たちは、ペテロと同じように「人に従うより、神に従うべきです」（使徒5：29）と言うべきです。

6. 「同じ理由（信仰的良心のゆえに）で、あなたがたは税金も納めるのです。彼ら（国家の職務に従事する人々）は神の公僕であり、その努め（国、国民のための仕事）に専念しているのです」：6。私たちは、神が与えて下さるものから、収入に応じ税金を納めます。その税収により、国の予算が決められ、それが真に必要なところに用いられるように祈りたい。どの国の政治家も罪人で完璧な予算の割り振りは現実にはできないことを認めながらも、できるだけ必要とする人々に予算が使われるように祈りたい。

7. 「すべての人に対して義務を果たしなさい。税金を納めるべき人には税金を納め、関税（輸入品に課する税）を納めるべき人には関税を納め、恐れるべき人を恐れ、敬うべき人を敬いなさい」：7。税は、自分たちの国家を維持するために必要な税金である。いやいやながらも義務さえ果たせば良いという態度ではなく、素晴らしい救いとすべての必要の与え主、真の権威者、すべての支配者である神に感謝し、神を畏れ敬い、恐れるべき人を恐れ、敬うべき人を敬う。神から与えられた収入の中から、国に収める税が、国家の健全な維持と真に困っている人の助けに用いられるように祈りたい。

Ⅱ 国や地位の高い人の命令が、明確に神のみこころに反する時。主を信じる信仰、国が主への礼拝、主を伝える伝道を禁止する時、国が侵略戦争をするために反対する自由を完全に封じ込める時に、指針となるみことば。「彼らは二人を呼んで、イエスの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならないと命じた。しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。『神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください』使徒4：18、19。「人に従うより、神に従うべきです」使徒5：29。「（人の命、神が与えられた人の人権を）殺してはならない」出20：13。

Ⅲ キリスト者の社会的責任

1. 「あなたがたは地の塩です」マタイ5：13。私たちキリスト者のこの世、地での役割は、世の中、国が悪で腐敗するのを防ぐための塩＝霊的な防腐剤となることである。そのためには、主から聖さ、正しさ、愛、思いやりをいただいて家庭学校、社会で生きる事である。また世が危険な方向に進んでいると気づかせられ、祈る事である。祈りつつ選挙に出向き、誠実な政治家に投票する事。自分の一票では何も変わらないと思っはいけない。一票の積み重ねで政治は変わる。

但し、聖書はすべての人の心には罪があると教えられ、どの政党も完璧ではないと認識したい。
※証し：私に与えられた判断は、与党の数が多過ぎると危険な法案も審議が尽くされずに、すぐに国会で通過するので危険という認識である。それゆえ、与党と野党の数のバランスが良いように祈りつつ考え投票する。もし私が投票した政党の数が多くなり、前の与党と同じように高ぶり、謙遜に審議をしないなら、次の選挙では別の党に投票する。同じ党が長く政権を握ると腐っていくことは歴史が証明している。二大政党が交互に政権を取ることは間違った法案が決まることの防御となる。私たちは「地の塩（世の腐敗を防ぐ使命）」として投票したい。

2. 「すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り（正しさと愛の政治ができるように）、とりなし、感謝（神の全ての恵みに）をささげなさい。それは、私たちがいつも敬虔（神を畏れ敬い）で品位（誠実さ）を保ち、平安（争い戦争をしない平和、神が下さる平安）で落ち着いた生活を送るためです。そのような祈りは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることです」 I テモテ 2：1－3。この祈りを日々祈りましょう。この祈りを神は喜ばれます。